

# 指標のローカライズ

主体性コモン・ルーブリックを基に、教育活動に合わせた学習目標や評価規準を作成することができます

事例1：高等学校 保健体育 「課題解決学習としての体育学習」

コモンルーブリック指標項目B-(1)「課題を自ら認識し、その解決のための方法を見いだす力」

コモンルーブリックの項目を「～の力」へと目標分析する

- 保健体育でめざす課題発見・実行力**
- 【自己の力を見極める力】
  - 【自己にふさわしい挑戦課題を設定できる力】
  - 【課題を解決する筋道を計画することができる力】

導き出した「～の力」をさらに具体的な内容に整理する

- 保健体育でめざす課題発見・実行力の内容**
- 【自己の力を見極める力】  
客観的な事実をもとに自己の力量をはかり、その理由を他者に伝えることができる
  - 【自己にふさわしい挑戦課題を設定できる力】  
課題の内容と設定の理由について客観的な事実をもとに自分で説明することができる
  - 【課題を解決する筋道を計画することができる力】  
課題解決の方法と筋道について客観的な事実をもとに自分で計画することができる

主体性コモン・ルーブリック 主体性を育むための目標及び評価指標

指標分類	指標項目	ステージⅣ	ステージⅢ	ステージⅡ	ステージⅠ
指標分類A 《日常的行動》に関する資質能力	指標項目A-(1) やりたいことや、やるべきことを見つける力	状況に対して、自分の興味や適性を見極め、自己実現のイメージをもって、それに向かう自分の行動の方向性を具体的に見いだすことができる。	状況に対して、自分の興味や適性を考え、自己実現のイメージをもって、それに向かう自分の行動の方向性を具体的に見いだすことができる。	目の前の状況を自分のこととして捉え、やりたいことややるべきことを見つめることができる。	必要感をもって、身近な環境(対象や人)にかかわろうとすることができる。
	指標項目A-(2) 考えたことを実行する力	状況を適切に認識し、目標・成果を具体的にイメージしながら、実行する方策を立て、実行することができる。	状況に応じて、やりたいことややるべきことを適切に取捨選択し、実行することができる。	状況を自分なりに捉え、やりたいことややるべきことを考えて実行することができる。	自分なりの目的をもって、身近な環境(対象や人)にかかわろうとすることができる。
	指標項目A-(3) 継続して取り組む力	自ら設定した目標に対し、必要に応じて方向性を修正するなどしながら、発展的に取り組むことができる。	自ら設定した目標に対し、自分の課題を整理しながら、継続的に取り組むことができる。	やりたいことややるべきことに向かい、困難があっても、くじけずに取り組み続けることができる。	自分のやりたいことに向かって繰り返し挑戦することができる。
指標分類B 《課題解決》に関する資質能力	指標項目B-(1) 課題を自ら認識し、その解決のための方法を見出す力	社会に関する課題を認識し、それらを多面的・論理的・批判的に分析し、具体的な解決のための方策を、提案をもって見出すことができる。	身近な社会の課題を認識し、それらを整理・分析し、解決のための方策を提案や知識・学習などから見出すことができる。	身の回りの課題を認識し、それらの原因などを自分なりに考え、解決のための方策を、思いいたり、考えたりすることができる。	やりたいことをする中で、課題を見つけ、よりよくしようとしたり、どうすればよい考えたりすることができる。
	指標項目B-(2) 課題解決を実行し、検証・改善する力	社会に関する課題の解決のために、他者と協働的に取り組み、その実践に対して多面的に評価・分析して、次の課題を見いだし取り組むことができる。	身近な社会の課題の解決のために、課題を整理・分析して取り組み、その実践を振り返り、よりよいしようと考えることができる。	身の回りの課題を認識し、それらに自分なりに考え取り組み、その実践を振り返り、よりよくしようと考えることができる。	やりたいことをする中で見つけた課題に対し、身近な人と一緒に手立てを考えたり、試行錯誤しながら、次につながりようとする
指標分類C 《価値の形成》に関する資質能力	指標項目C-(1) 自分のよさを認める力	自分の特性や資質、集団における役割などを認識し、それらを積極的に活かすことの意味や価値を認めることができる。	自分の特性やよさを認め、他者との共通点や相違点を認識し、活かすことの意味や価値を見出すことができる。	自分の特性やよさを認め、肯定的に受け入れ、自分自身に意味や価値を見出すことができる。	身近な人にあるままの自分を認めて、認められる喜びを感じることができる。
	指標項目C-(2) 自分の見方・考え方をもちつづける力	自分の経験や様々な情報、学問的知識などをもち、対象・事象を多面的に捉えるもの見方・考え方をもちつづけることができる。	自分の経験や様々な情報などをもち、対象・事象を冷静に捉えるもの見方・考え方をもちつづけることができる。	自分の経験や学んだことなどをもち、対象・事象を捉えるもの見方・考え方をもちつづけることができる。	自分の経験などをもち、対象や事象を捉えるもの見方・考え方をもちつづけることができる。
指標分類D 《協働組織形成》に関する資質能力	指標項目D-(1) コミュニケーションをとろうとする力	多様な集団などの関係において、自分の意見を相手の立場に立って積極的に伝えたり、相手の意見を積極的に受け入れようとする	様々な他者と関わる中で、自分の立場などを考え、意見や思いを積極的に伝えたり、他者からの意見などを受け入れたりできる。	身近な人などに関わる中で、自分の意見や思いを分かりやすく積極的に伝えたり、他者からの意見などを受け入れたりできる。	身近な人に自分の思いを伝えたり、身近な人の思いを受けたりすることができる。
	指標項目D-(2) 他者を尊重する力	自分と他者と他者の違いの意義を理解し、他者の存在の尊厳や、多様性を認めることの重要性を理解できる。	自分と他者と他者の違いを肯定的に受け入れ、他者を積極的に認めることができる。	自分と他者と他者の違いを認識し、他者を認めることができる。	自分と、友達や身近な人との違いを認めようとする。
	指標項目D-(3) 合意形成する力	異なる立場の意見を聞き合ったり、目的や目標に応じて多面的に議論し、与えられた条件の中で最もよい考えとなるよう合意形成することができる。	身近な社会の中での自分の置かれた環境を理解し、自分の立場や役割を認識することができる。	身近な他者などによっての自分の存在に気付く、自分の役割やできることを考えることができる。	自分の考えや捉えたり、友達の話や意見を聞きながら、遊びや生活を工夫してつづけていくことができる。
指標分類E 《公共意識》に関する資質能力	指標項目E-(1) 社会の一員としての自己を認識する力	社会の中での、自分の置かれた環境を客観的に理解した上で、自分の立場や役割を、その社会的意義を理解することができる。	身近な社会の中での自分の置かれた環境を理解し、自分の立場や役割を認識することができる。	身近な他者などによっての自分の存在に気付く、自分の役割やできることを考えることができる。	集団の中でのつととして生活しようとする
	指標項目E-(2) よりよい社会の実現のために貢献しようとする力	社会の課題を理解し、その課題の背景を考えながら、解決に取り組む、その社会的意義を感じることができる。	身近な社会の課題を捉え、その解決のために取り組み、その意義を感じることができる。	身近な他者のために行動することができ、その行動を振り返り、喜びや達成感を感じることができる。	自分事としてではなく、クラスや集団のために行動しようとする

**主体性コモン・ルーブリックの見方**  
主体性コモン・ルーブリックは、総合的な学習の時間や探究の時間、行事や教科学習等、あらゆる教育活動において「主体性の育成」の観点で目標を設定する際の指標として活用することを目的としています。このルーブリックでは、「主体性」を構成する資質能力を、おおきく5つの指標に分類しています。さらにその指標をそれぞれ2-3、あわせて12の指標項目に分けています。その項目を、I-Nの4つのステージに分けて、求められることでの姿で表しています。ステージIは主に就学前児童に求められる内容、ステージIIは小学校卒業段階、ステージIIIは中学校卒業段階、ステージIVは高等学校卒業段階に相当します。ただし、これらは厳密に年齢に対応したものではなく、あくまでもそれぞれの資質能力の伸長の段階の目安であり、例えば中学生であればすべてステージIIIを目標とするのが正解ではありません。また、特別支援学校(知的障害教育)などでは、発達年齢と生活年齢(実年齢)を考慮してステージ項目を選択する必要があります。このように、ここに記された指標は、汎用性のある基本的な内容であり、校園や学習内容にあわせて、具体化(ローカライズ)することを想定しています。

事例2  
幼稚園における  
《協働性-コミュニケーションをとろうとする力》を育むための目標設定への展開

コモン・ルーブリック指標項目D-(1) コミュニケーションをとろうとする力

- 【身近な人に自分の思いを伝える】  
いろいろな方法(言葉、表情、態度)で自分の思いを表現し、相手に伝える。
- 【気の合う友達や先生に自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりする】  
遊びの中で、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の言葉や表情で相手の思いに気付いたりする。
- 【いろいろな友達と思いを伝え合いながら遊びを進める】  
友達とのかかわりの中で、思いや考えを言葉で伝え合いながら、遊びを進めていく。

こどもの主体性を育む教育目標と評価指標  
主体性コモン・ルーブリック

2021年3月  
大阪教育大学附属幼稚園  
大阪教育大学附属平野小学校  
大阪教育大学附属平野中学校  
大阪教育大学附属高等学校平野校舎  
大阪教育大学附属特別支援学校

印刷 正栄堂印刷株式会社

学校目標設定に！ 総合的な学習の時間・探究の時間の学習目標と評価のために！ 教科学習・アクティブラーニングに！

幼稚園から高等学校まで こどもの主体性を育む教育目標と評価指標

# 主体性コモン・ルーブリック

大阪教育大学附属平野地区五校園一附属幼稚園・附属平野小学校・附属平野中学校・附属高等学校平野校舎・附属特別支援学校一の、全教員によるワークショップから生まれた、「具体のこどもの姿」に基づく「主体性」評価指標



やりたいことややるべきことを見つける力



合意形成する力



自分の見方・考え方をもちつづける力



よりよい社会の実現のために貢献しようとする力



課題解決を実行し、検証・改善する力

5つの指標・12の項目・4つのステージで示す こどもの主体性が働く姿

大阪教育大学附属平野五校園共同研究 平成30年度-令和2年度  
附属幼稚園・附属平野小学校・附属平野中学校・附属高等学校平野校舎・附属特別支援学校

# 主体性コモン・ループリック

## 主体性を育むための目標及び評価指標

指標分類	指標項目	ステージⅣ	ステージⅢ	ステージⅡ	ステージⅠ
指標分類A 〈日常的行動〉に関する資質能力	指標項目A-(1) やりたいことや、やるべきことを見つける力	状況に対して、自分の興味や適性を見極め、自己実現のイメージをもって、それに向かう自分の行動の方向性を、具体的に見いだすことができる。	状況に対して、自分の興味や適性を考え、自己実現のイメージをもって、それに向かう自分の行動を構想することができる。	目の前の状況を自分のこととして捉え、やりたいことややるべきことを見つけることができる。	必要感をもって、身近な環境(対象や人)にかかわろうとすることができる。
	指標項目A-(2) 考えたことを実行する力	状況を適切に認識し、目標・成果を具体的にイメージしながら、実現する方策を立て、実行することができる。	状況に応じて、やりたいことややるべきことを適切に取捨選択し、実行することができる。	状況を自分なりに捉え、やりたいことややるべきことを考えて実行することができる。	自分なりの目的をもって、身近な環境(対象や人)にかかわろうとすることができる。
	指標項目A-(3) 継続して取り組む力	自ら設定した目標に対し、必要に応じて方向性を修正するなどしながら、発展的に取り組み続けることができる。	自ら設定した目標に対し、自分の課題を意識しながら、継続的に取り組み続けることができる。	やりたいことややるべきことに向かい、困難があっても、くじけずに取り組み続けることができる。	自分のやりたいことに向かって、繰り返し挑戦することができる。
指標分類B 〈課題解決〉に関する資質能力	指標項目B-(1) 課題を自ら認識し、その解決のための方法を見出す力	社会に関する課題を認識し、それらを多面的・論理的・批判的に分析し、具体的な解決のための方策を、根拠をもって見出そうとすることができる。	身近な社会の課題を認識し、それらを整理・分析し、解決のための方策を経験や知識、調べ学習などから見出そうとすることができる。	身の回りの課題を認識し、それらの原因などを自分なりに考え、解決のための方策を、思い付いたり、考えたりすることができる。	やりたいことをする中で、課題を見つけ、よりよくしようと思ったり、どうすればよいか考えたりすることができる。
	指標項目B-(2) 課題解決を実行し、検証・改善する力	社会に関する課題の解決のために、他者と協働的に取り組み、その実践に対して多面的に評価・分析して、次の課題を見いだし取り組むことができる。	身近な社会の課題の解決のため、課題を整理・分析して取り組み、その実践を振り返り、新たな課題を見つけたりすることができる。	身の回りの課題の解決のため、自分なりに考えて取り組み、その実践を振り返り、よりよくしようと考えることができる。	やりたいことをする中で見つけた課題に対し、身近な人と一緒に手立てを考えたり、試行錯誤しながら、次につなげようとすることができる。
指標分類C 〈価値の形成〉に関する資質能力	指標項目C-(1) 自分のよさを認める力	自分の特性や資質、集団における役割などを認識し、それらを積極的に活かすことの意味や価値を考えることができる。	自分の特性やよさを認め、他者との共通点や相違点を認識したうえで、自分自身に意味や価値を見出すことができる。	自分の特性やよさに気付き、肯定的に受け入れ、自分自身に意味や価値を見出すことができる。	身近な人にありのままの自分を出したり、認められる喜びを感じることができる。
	指標項目C-(2) 自分の見方・考え方をもちつことのできる力	自分の経験や様々な情報、学問的知識などをもとに、対象・事象を多面的に捉えるものの見方・考え方をもちつことのできる。	自分の経験や様々な情報などをもとに、対象・事象を冷静に捉えるものの見方・考え方をもちつことのできる。	自分の経験や学んだことなどをもとに、対象・事象を捉えるものの見方・考え方をもちつことのできる。	自分の経験などをもとに、対象や事象を捉えるものの見方・考え方をもちつことのできる。
指標分類D 〈協働組織形成〉に関する資質能力	指標項目D-(1) コミュニケーションをとろうとする力	多様な集団などとの関係において、自分の意見などを相手の立場に立って積極的に伝えたり、相手の意見などを共感的に受け入れようとするところができる。	様々な他者と関わる中で、自らの立場などを考え、意見や思いを積極的に伝えたり、他者からの意見などを受け入れたりできる。	身近な人などに関わる中で、自分の意見や思いを分かりやすく伝えたり、それに対する他者の反応を受容することができる。	身近な人に自分の思いを伝えたり、身近な人の思いを聞いたりすることができる。
	指標項目D-(2) 他者を尊重する力	自分と他者と他者の違いの意義を理解し、他者の存在の尊さや、多様性を認めることの重要性を理解できる。	自分と他者との違いを肯定的に受け入れ、他者を積極的に認めることができる。	自分と他者との違いを認識し、他者を認めることができる。	自分と、友達や身近な人との違いに気付き、認めることができる。
	指標項目D-(3) 合意形成する力	異なる立場の意見を理解し認め合ったうえで、目的や目標に応じて多面的に議論し、与えられた条件の中で最もよい考えとなるよう合意形成することができる。	身近な社会の中での自分の置かれた環境を理解し、自分の立場や役割を認識することができる。	身近な他者などにとっての自分の存在に気付き、自分の役割やできることを考えることができる。	自分の考えを伝えたり、友達の話や遊びや生活をつくっていくことができる。
指標分類E 〈公共意識〉に関する資質能力	指標項目E-(1) 社会の一員としての自己を認識する力	社会の中での、自分の置かれた環境を客観的に理解した上で、自分の立場や役割と、その社会的意義を理解することができる。	身近な社会の中での自分の置かれた環境を理解し、自分の立場や役割を認識することができる。	身近な他者などにとっての自分の存在に気付き、自分の役割やできることを考えることができる。	集団の中のひとりとして生活しようとするところができる。
	指標項目E-(2) よりよい社会の実現のために貢献しようとする力	社会の課題を理解し、その問題の背景を考えながら、解決に取り組み、その社会的な意義を感じることができる。	身近な社会の課題を捉え、その解決のために取り組み、その意義を感じとることができる。	身近な他者のために行動することができ、その行動を振り返り、喜びや達成感を感じることができる。	自分の事だけではなく、クラスや園のために行動しようとするところができる。

### 主体性コモン・ループリックの見方

主体性コモン・ループリックは、総合的な学習の時間や探究の時間、行事や教科学習等、あらゆる教育活動において「主体性の育成」の観点で目標を設定する際の指標として活用することを目的としています。このループリックでは、「主体性」を構成する資質能力を、おおきく5つの指標に分類しています。さらにその指標をそれぞれ2~3、あわせて12の指標項目に分けています。その項目を、Ⅰ~Ⅳの4つのステージにわけて、求められるこどもの姿で表しています。ステージⅠは主に就学前児童に求められる内容、ステージⅡは小学校卒業段階、ステージⅢは中学校卒業段階、ステージⅣは高等学校卒業段階に相当します。ただし、これらは厳密に学齢に対応したものではなく、あくまでもそれぞれの資質能力の伸長の段階の目安であり、例えば中学生であればすべてステージⅢを目標とするのが正解ではありません。また、特別支援学校(知的障害教育)などでは、発達年齢と生活年齢(実年齢)を考慮してステージ項目を選択する必要があります。

このように、ここに記された指標は、汎用性のある基本的な内容であり、校園種や学習内容にあわせて、具体化(ローカライズ)することを想定しています。